



MIYOSHI
CENTRAL HOSPITAL

第24号

2015年5月

市立三次中央病院だより

花みずき



新しく40名の仲間が増えました

基本理念

私たちは地域の皆様から信頼され
親しまれる病院を目指します





病院長

中西 敏夫

三次市の目指すまちづくりは「しあわせを実感しながら、住み続けたいまち」中山間地の未来を拓く拠点都市・三次」です。平成27年度、市役所は本館（新設）と東館（リニューアル）の工事が完了し、調和のとれた明るい庁舎となり新たなスタートを切りました。昨年10月「市民ホールきりり」の落成式、合併10周年の記念式典が行われたばかりですが、2月にグランドオープンし多くのイベントが企画されています。また待望の中国やまなみ街道は3月22日に全線開通し冠事業も目白押しです。当院の近くには農業交流連携拠点施設として3月27日「トレッタみよし」がオープンしました。取れたて野菜を中心とした直売や、パン工房、バイキング形式の飲食施設などが整備され連日賑わっています。

市立三次中央病院は、平成27年度、医師は医局の人事異動による

18名、看護師は新卒者12名、既卒者6名の計18名、薬剤師2名、放射線技師2名の採用です。4月2日、オリエンテーション終了後、病院玄関前の屋外で集合写真を撮りました。例年通りの花みずき、表紙の写真です。

医師数は昨年より4名増員して71名になりました。内科は腎臓内科が非常勤でしたが、3名の常勤体制に内分代謝内科が1名増員となり、外来の診察室が足りないといううれしい悲鳴が上がっています。看護師は昨年度28名を採用し6月から待望の7対1看護体制を開始していますが、今年18名の採用で、7対1看護体制は維持して行けそうです。

地域医療と人口問題

この2月市広報「三次」に特集として市立三次中央病院の取り組みを掲載したばかりですので少し視点を変えて地域医療と人口問題について述べてみたいと思います。人口は社会動態（転入と転出）、自然動態（出生と死亡）により決まります。広島県の人口は平成17年から減少に転じています。人口287万6,762人、社会減（転出が転入を上回り）517人、この年はじめて自然減（出生数と死亡数が逆転）196人の計713人とわずかですが人口減少にな

り、この10年で約4万3,000人の減少です。

旧三次市の人口は平成15年、3万9,394人ですが社会増166人、自然増21人の計187人の人口増です。平成16年合併時、人口は6万1,977人、社会減2,542人、自然減2,288人の計4,822人の人口減少となっています。以後、社会減・自然減により人口は減少しており、平成26年は5万5,642人です。社会減の要因は様々で年度により変動はありますが、自然減の原因は出生数の減少と死亡者数の増加です。平成16年の出生数5,244人から漸減し平成25年は4,300人、逆に死亡数は7,522人から漸増し8,633人となっています。

人口減少・少子高齢社会に対し定住対策、子育て支援などの施策は国をはじめ多くの自治体で実施していますが、容易なことではありません。

高齢化に伴う死亡者数は年々増加しており、高齢化はすなわち多死社会の到来です。大都市圏ではこの10年間で75歳以上の後期高齢者が増加することが示されています。国民の死亡場所は病院が約78%、自宅が約12%、その他施設などです。財政不足の国はこれ以上の病床数の増加は認めていませんから、在宅や施設での看取りにシフトしていく必要があります。

効率的な医療提供体制（地域医療構想）や在宅支援に向けて地域包括ケア（介護が必要となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的かつ継続的に提供されるシステム）の整備が進められています。（P7参照）今回、広島県の統計資料から三次の人口動態を見てみました。人口に比し世帯数の減少は顕著ではありません。独居世帯や要介護の住民が今後さらに増加していくことは間違いありません。

年間死亡者数は意外と少ないのが実感です。中山間地域はすでに高齢化しており、今後しばらく高齢化率は上昇しますが高齢者数はむしろ減少し、死亡者数のさらなる増加はありません。三次市の年間死亡者数は現在863人、10年間で約1,000人の増加でした。今後10年、年間死亡数は1,000人に満たないと予測され、病床数は十分です。

当院の入院患者は三次市内65%、市外35%で年間死亡数は約4,000人です。人口6万人弱の三次市にとっては市立三次中央病院350床の急性期病院の存在は大きなものと改めて感じました。

次回は医療費適正化について話をしてみたいと思っています。

新任医長あいさつ



脳神経外科医長
浜崎 隆幸
理

4月から脳神経外科医長として赴任しました浜崎理と申します。実は約20年前にも当病院に勤務しており、感慨深いものを感じております。

脳血管治療が専門ですが、内科的治療や外科的治療も含めて、脳神経疾患全般を診させていただきます。脳卒中の患者さんを診させていただくことが多いと思われませんが、突然の脳卒中症状がある場合には我慢したりせずに早めの受診をお願いします。

三次また広島県北地域の医療に少しでも貢献できるように頑張りますので、よろしくお願ひします。



整形外科医長
杉岡 敏博

4月から整形外科医長を仰せつかりました杉岡と申します。前任の大石芳彰先生は11年前に脊椎外科が盛んでなかった当院に赴任され、脊椎脊髄専門医としてご尽力されてこられました。そのおかげで市立三次中央病院が、三次市内のみならず備北や島根県南部にわたって脊椎外科病院として広く認知されるまで発展できたと考えております。しかしながら新しく赴任した医師は脊椎専門医でないため、残念ながら当院での脊椎外科治療を縮小せざるを得なくなりま

した。皆様には大変ご迷惑をおかけすること存じますが、手術以外の脊椎疾患診療は変わらず続けますし、手術が必要な症例も迅速に方針決定、専門医への紹介等進めますので、引き続きご紹介等い



腎臓内科医長
吾郷 里華

ただけたらと存じます。また脊椎以外の他分野においては全く変わりありません。整形外科医師一同、前年度を超えるべく日々スキルアップ、レベルアップに励んでおりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

4月から腎臓内科に着任いたしました吾郷里華と申します。以前にも当院で勤務をさせていただきました。早速に病院内で患者さんや色んなスタッフのみならず、有難く思いました。一方で、病院内の周囲の環境は以前とは大きく変わ

り、みよし運動公園ができてテニスコートや野球場などがあり驚きました。中国やまなみ街道も開通し、これから益々の三次の発展が期待されるところでです。

今年度から腎臓内科医は他に大石展盟医師、松本拓視医師の合計3名となりチームでの診療が可能となり、私としても心強く、患者



皮膚科医長
秋本 成宏

さんへの治療に反映したいと考えております。これまで当院での透析治療を支えてこられた越智誠医師と今後も力を合わせ、また他科の先生方のお力もお借りしながらですが、慢性腎障害、腎炎の内科ならではの治療も充実させていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

4月から赴任しました秋本成宏と申します。皮膚科一般を担当いたしますが、とりわけ皮膚外科領域におきまして研鑽を積んでまいりました。生まれは広島市であり、三次の地では初めての勤務となりますが、少しでも地域に貢献できるように頑張っていく所存です。一人医長ですので、マンパワー不足は否めませんが、「皮膚科の先生が一人でもおつてくれて助かりました」と言われる医師像を目指していきたいと思います。よろしくお願ひ致します。

連載 **がんの治療** 15

消化器内科医長 濱田敏秀

すいぞう **膵臓がん**

膵臓がんとは

膵臓がんにはあらゆる組織型（タイプ）が存在しますが、膵管上皮から発生する膵管がん（通常型膵臓がん）がその大半（8〜9割）を占めます。

全国統計では肺がん、胃がん、大腸がんに次いで死因の第4位で、近年増加傾向にあります。

好発年齢は60歳代で、やや男性に多くみられます。膵臓がん発症の危険因子として喫煙、膵臓がんの家族歴、糖尿病・慢性膵炎を有病に持つことなどが挙げられます。

膵臓がんの問題点は、他の悪性腫瘍と比較して悪性度が高く、また初期の段階で発見されることが極めて難しいことです。腫瘍が小さい段階では炎症（膵炎）を併発しない限りほとんど症状を伴いません。腫瘍が大きくなると背部痛、体重減少などの症状を伴うようになりますが、予後の改善にはこういった症状が出る前の段階で発見されることが望まれます。

膵臓がんの診断

膵臓は、食べたものを消化するために消化酵素を含む膵液を分泌しています。その通り道である膵管に発生するものが膵臓がんであり、腫瘍により膵管が狭くなり、そのため膵液の流れが妨げられ、上流の膵管に変化が起こります。

（図）。このわずかな変化を捉えることが早期診断には最も重要とされています。そのためには健康診断などで行われるエコー検査の役割がとても重要です。その他、血液検査による腫瘍マーカーの測定（CA19-9など）やCT検査、MRI検査、内視鏡を使ったERCP検査（写真）も本疾患の診断に広く行われています。

膵臓がんの治療法

条件が許せば外科的切除が第一選択です。根治が期待できる治療

法は外科的治療が唯一と言っても過言ではありません。しかし、たとえ手術ができる段階のものであっても術後再発を認めることが稀ではなく、治療は容易ではありません。

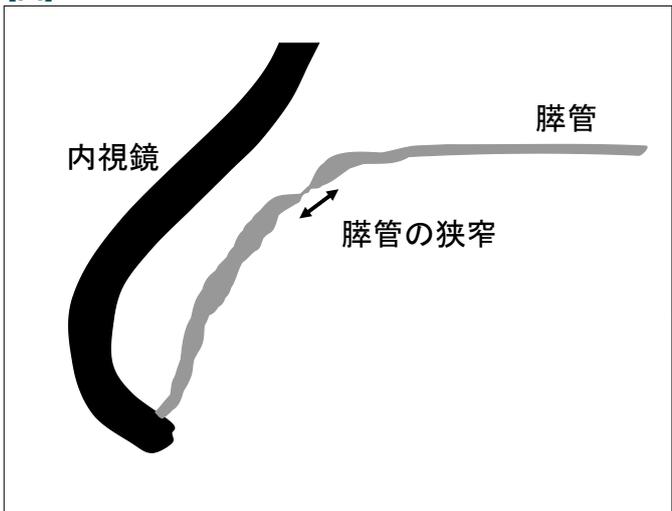
外科的治療以外には抗がん剤を用いた化学療法があり、腫瘍の進行を遅らせるべく広く行われています。適応できる薬剤には各々特色があり、患者さんの年齢、骨髄機能、心機能、腎機能等を見極めた上で治療法を決定します。

【写真】



内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP)

【図】



写真は、口から十二指腸まで内視鏡を入れ膵管を造影したレントゲン写真です。内視鏡先端から膵管に細いカテーテルを挿入し膵管内に造影剤を満たしたところ、膵管の一部（矢印）が狭くなっていました。精査の結果、通常型膵臓がんと判明しました。



Vol.17

慢性心不全と

心不全手帳について

循環器内科医長

田中 幸一

慢性心不全について

心臓の最も重要な働きは血液を体の隅々まで送り届けるポンプ機能です。このポンプ機能が低下し全身に十分な血液を送り出せなくなった状態、あるいはうっ血（血液の渋滞）を起こした状態を心不全といえます。心臓の病気には心筋梗塞、弁膜症、不整脈、心筋症、高血圧性心臓病、先天性心疾患などいろいろなものがありますが、これらの心臓病すべての行き着く先が慢性心不全です。心不全になると、疲れやすくなったり、食欲が無くなったり、息が苦しくなったり、顔や手足が腫れたり、さまざまな症状が出て日常生活に支障を来します。

慢性心不全を持つ患者数は年々増加しており、今後も増え続けることが予想されています。心不全に対する治療は日々進歩していますが、慢性心不全になると、その

後の死亡率はかなり高くなります。また入院が必要になることも多くなり、なかには突然の呼吸困難などで、緊急入院を繰り返す人もいます。そこで、もし心不全になったときには、その後適切な治療を行っていくことが、患者さん本人にとっても家族の人にとっても、また今後の医療費増大が懸念される社会全体にとっても非常に大切です。

心不全の治療法は

- 心不全の治療では、
- 心臓カテーテルやペースメーカーあるいは人工弁などを用いて、原因を根本から排除する
- うっ血を取り除いたり、心臓の働きを保護したりする薬を飲む
- 酸素吸入をしたり睡眠中の呼吸を補助する機械を使う
- 塩分制限を含む適切な食事を続ける

- 適度な運動を行う
- 血圧測定を行う
- 体重測定を行う
- 薬の内服をはじめ、必要な治療をきちんと行っているか確認する
- などと、たくさんの方が必要になってきます。

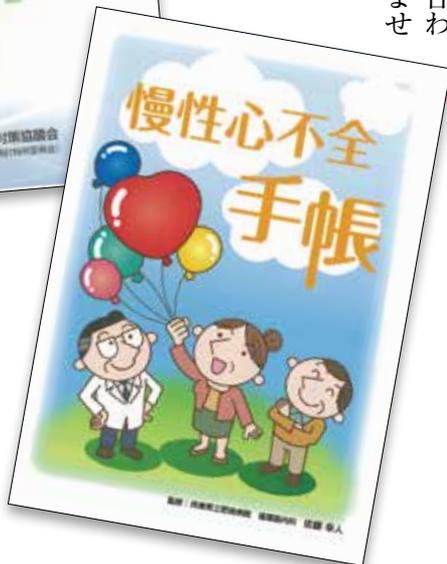
治療の主体は患者さん自身

これらのさまざまな治療は、診察室の中だけあるいは医師だけで行えるものではありません。看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士、臨床検査技師、放射線技師、理学療法士などたくさんの方の力を合わせて取り組まなくてはなりません。

そして実は患者さん自身が主体的に治療に関わるのと、つまり治療を受けるの

ではなく医療スタッフの支援のもとで患者さん自身が中心となって治療を行っていくという考えが重要です。

これらのことから、当院では「心不全手帳」（左写真）を使用して、心不全治療をさまざまな医療職でサポートしていくというチーム医療を始めました。当院のスタッフから心不全手帳の使用を勧められた方は、心不全があるかまたは将来心不全になる危険性が高い方です。是非この手帳を利用して、ご自身の治療をご自身が主体となっていくください。我々が、適切な治療をサポートします。



最新鋭PET-CT装置を新規導入

日本核医学会 PET認定技師
PET-CT担当 林 哲則

昨年12月、中国山間部で2施設目（津山中央病院に次いで）、広島県内では8番目のPET-CT装置が導入されました。今まで広島市内のPET-CT施設で検査を受けてこられた患者さんへの負担軽減になればと思います。

今回導入のPET-CT装置は、最新の画像解析ソフトを搭載したことで、より詳細な病変を検出することが可能になりました。

PET-CT検査とは

PET-CT検査とは、細胞がブドウ糖を取り込む（代謝）機能を利用する検査法です。がん細胞は、通常の細胞に比べより多くのブドウ糖をエネルギーとして消費する性質があります。その性質を利用して、ブドウ糖によく似た放射性同位元素（¹⁸F-FDG）薬剤を体に注射し、その集積を撮影して診断する検査法です。

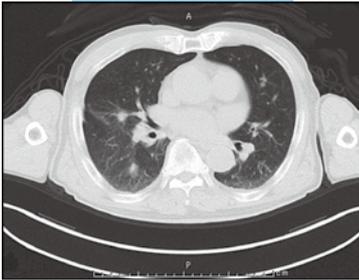
検査の流れ

来院されてから検査が終わるまでにかかる時間は2時間30分程度

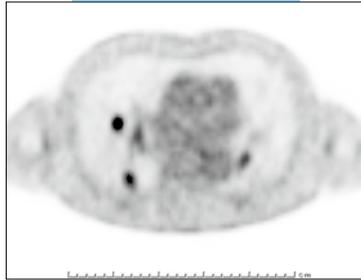
です。ブドウ糖によく似た放射性同位元素が体内の臓器へ取り込まれるまで、おおよそ1時間程度待機室（回復室）でお待ちいただき、その後、PET-CT室で検査が始まります。検査は、まず組織の位置や大きさ・形をみるCT撮影

を行います（図1）。その後、ブドウ糖の代謝をみるPET撮影を行います（図2）。検査時間は20分〜30分（体格により撮影時間が異なります）程度で終了します。CTとPETそれぞれの撮影を行い、2つの画像を重ね合わせる事によって、がんの位置をより明確にし、正確な診断が出来る画像を作成しています（図3）。PET-CT撮影後には再び回復室に戻り、そのまま約30分間お休みいただいた後、退室となります。

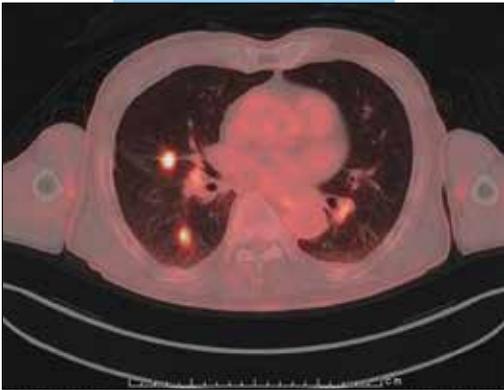
【図1】CT画像



【図2】PET画像



【図3】PET-CT画像



ご注意ください

PET-CT検査はブドウ糖の代謝を利用する検査のため、食事だけでなく糖分を含む飲み物・飴などの摂取にはとても大きく影響を受けます。また、検査前日の激しい運動にも大変影響を受けます。検査を受けられる患者さんには注意事項の説明を行います。必ずお守りいただくようご協力をお願いします。

従来のCT検査では見つけにくい小さな病変が、PET-CT検査により認識される可能性も高く、一度に全身の検査ができ、自覚症状がない方の健診検査にも適しています。

PET-CT検査は6月頃から随時受付を開始する予定です。



安心して退院できるその日まで！

地域包括ケア病棟の役割

「地域包括ケアシステム」とは、介護が必要になった高齢者も、住み慣れた自宅や地域で暮らし続けられるように、「医療・介護・介護予防・生活支援・住まい」のサービスを一体的に受けられる支援体制のことです。

当院では、平成26年9月から、5階東病棟（53床）を地域包括ケア病棟とし、運用を開始しました。

地域包括ケア病棟は、急性期医療から在宅療養を結ぶ支援を担う病棟です。

入院治療後、症状が安定した



在宅復帰に向けたカンファレンスの様子

けれども、すぐに自宅や施設へ帰ることに不安のある患者さんが多くみられます。

地域包括ケア病棟は、60日以上という一定期間の限度を持って在宅復帰に向けた医療管理・診療・看護・リハビリテーション等を行い、退院後の生活不安を解消する支援を行います。

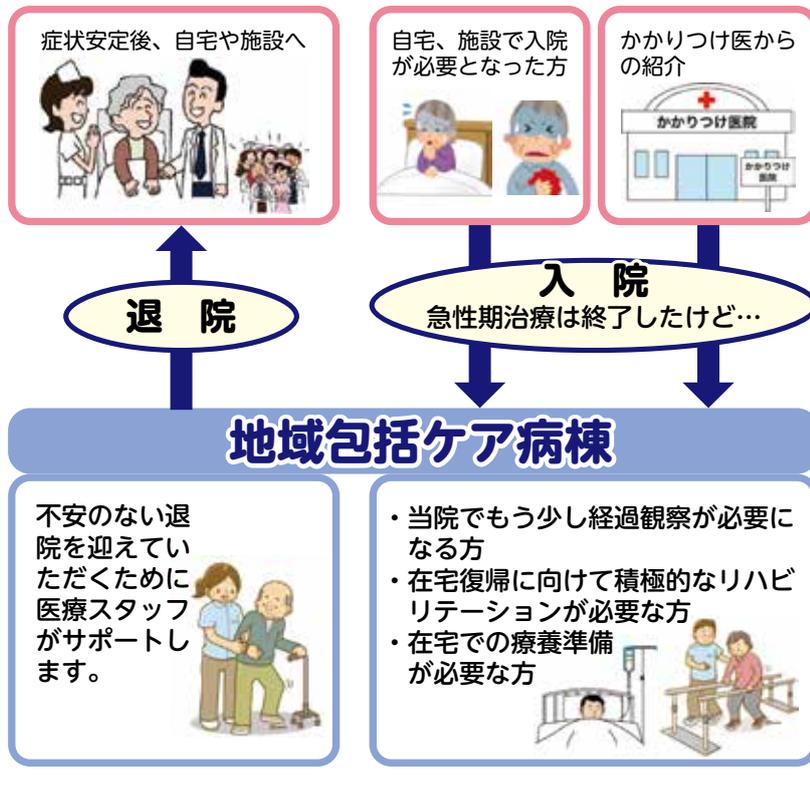
また退院された後も、自宅や施設での生活が安心して過ごせるように、かかりつけ医と連携し、身体や心の健康を守るサポートを行います。

入院中から医療機関・介護施設・ケアマネージャー等が、患者さんの情報を共有することで、切れ目のない医療を提供することが出来ます。

「対象となる患者さんは」

- 1 当院でもう少し経過観察が必要になる方
- 2 在宅復帰に向けて積極的なリハビリテーションが必要な方
- 3 在宅での療養準備が必要な方です。

～入院から退院までの流れ～



入院されると病状に合わせて病棟間での移動をお願いすることがありますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

患者さんとご家族が安心して住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、医療・介護・福祉で連携を取り支援を行います。



看護師、専従リハビリスタッフによる在宅復帰支援



あなたが結ぶ、あなたの健康情報！

診療情報開示システムをご利用ください

診療情報開示システムとは

『市立三次中央病院』と『かかりつけ医』との間を専用回線で結び、患者さんの医療情報を共有することで、より安全で安心な診療に役立てるための仕組みです。

市立三次中央病院では、2つの診療情報開示システムを運用しています。

HMネット

広島県医師会が運用する
医療情報ネットワークシステム

きりこちゃんネット

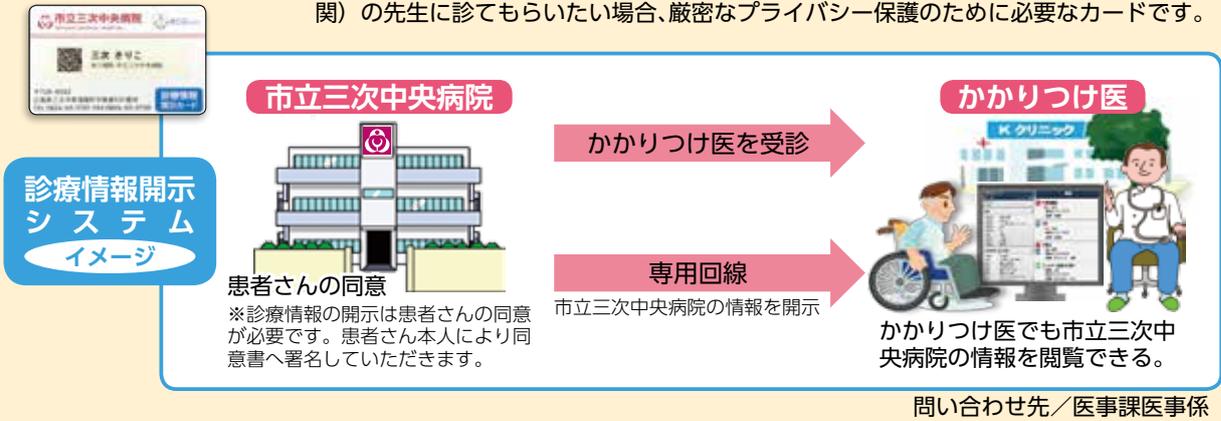
市立三次中央病院が独自に運用する
診療情報閲覧システム

診療情報開示システムを利用することで
次のようなメリットがあります。

- 複数の医療機関による検査や投薬の重複を避けることができます。
- 薬剤禁忌やアレルギー情報などが共有されるため、医療の安全性が向上します。

- ご利用にあたって
- 診療情報開示システムの利用は、患者さん本人の同意が必要になります。
 - HMネットのご利用に際しては「※診療情報開示カード」を発行します。
 - 患者さんの費用負担はありません。
 - 利用を取りやめたいときは、いつでも中止することができます。

※「診療情報開示カード」 市立三次中央病院にある患者さんの診療情報を、かかりつけ医（HMネット参加医療機関）の先生に診てもらいたい場合、厳密なプライバシー保護のために必要なカードです。



病院ボランティア募集

～あなたの思いやりを患者さんへ～



市立三次中央病院では、院内でボランティアとして活動していただける方を募集しています。皆さんの善意の活動をお待ちしています。

- 活動内容 / 外来患者さんへの支援
(玄関での車の乗降の手伝い、待合での手伝いなど)
- 活動時間 / 月～金曜日 (祝祭日を除く)
8時30分～12時のうち都合のよい時間
- 応募にあたって
 - 交通費を支給します。(市の規定による)
 - ボランティア保険は当院が加入します。
- 応募・問い合わせ先 / 医事課医事係
TEL (0824) 65-0153 FAX (0824) 65-0159
Email : iji@city.miyoshi.hiroshima.jp